

第1回北広島町環境審議会の振り返り

(森林について)

- ・木の伐採や運搬車両をよく見るようになった。伐採跡地がどうなるのかわからず不安。
- ・事業採算性の観点から再造林が進んでいないことが問題。一定規模の森林であれば補助を受けて再造林できるが、小規模な森は放置され、伐られてもそのままになっている。
- ・北広島町の多くは天然林(広葉樹林)であり、紅葉の景観など人工林にない良さがある。一方、国や県の政策は製材用の針葉樹林を育てるところに補助金が充てられて、広葉樹林の伐採後、再度、広葉樹を植栽するための補助がない。補助がなければ植栽できない。

(普及啓発事業について)

- ・役場庁舎に太陽光発電が設置されているなど、住民に町の取組をもっとPRすることが必要ではないか。
- ・太陽光発電のメリットや補助制度についてPRすべき。蓄電池とセットで導入できると自給率が高まり、いいのではないか。
- ・高校生とか大学生に話をきく、学校授業と連携するなど、将来世代の意見を取り入れることが大切だと思う。
- ・何から取り組めばいいか、町民や企業にわかりやすく知らせていくことが大切である。快適さを我慢するような取り組みは続かない。モンペルのような楽しさが必要である。

(2030年温室効果ガス排出削減目標について)

- ・産業は北広島町の基幹産業であり、温室効果ガス排出量の大部分を占めている。目標達成には企業の参画が不可欠だが、国と同等基準の削減を求めるのは、産業の衰退につながるのではないか。事業者にも計画に参画してもらうことが大切だろう。
- ・経済発展と環境問題の両立が必要だが、大きな排出削減をすることはできないと思う。大企業だけでなく、中小企業や住民にとっても何から取り組めばいいのかイメージできるようにしてほしい。
- ・いち早く町の政策で脱炭素に転換していくことができると、それが強みに変わっていくということがある。高騰する電気代を抑えられるとか、生産性を上げられるとか、投資が集まるということが起こり得る。脱炭素の取り組みはプラスの面もあるので、地域経済の耐久性を高める意味でも、その政策と打ち込みてはやっていく必要があると思う。
- ・脱炭素のメリットを周知することはもちろん、脱炭素に取り組む企業をサポートする体制をつくるのが行政のできることだと思う。

(農林水産業の排出量について)

- ・農林水産業における住民一人あたりの排出量がほかと比べて多いのはなぜか
→数字の算出方法を提示する。
 - ① 広島県全体の農林水産業における二酸化炭素排出量を把握する。
(県全体の農林水産業で使用する農業器具や暖房等の化石燃料及び電気の使用量をエネルギー統計で把握し、二酸化炭素排出係数を乗じて算出する)
 - ② 広島県の農林水産業従事者一人当たりの二酸化炭素排出量を算出する。
(①の数字を広島県の農林水産業従事者数(経済センサス)で除して算出する)
 - ③ 北広島町の農林水産業の二酸化炭素排出量を推計する。
(②の数字に北広島町の農林水産業従事者数(経済センサス)を乗じて算出する)
 - ④ 町民一人あたりの二酸化炭素排出量を推計する。
(③の数字を北広島町の昼間人口で除して算出する)

- ※ ④で推計された二酸化炭素排出量の特徴として、人口が少なく農林水産業就業者数が多い自治体ほど多くなる傾向がある。
(北広島町：1.29tCO₂/人、世羅町：2.21tCO₂人)

(環境配慮の取組について)

- ・再生可能エネルギーの導入に対する地域の考え方を事前に整理しておく必要があるのではないか
- ・再生可能エネルギー事業をやっていこうとする事業者と、地域の中でちゃんと話ができるような場所を作ることが大事だと感じる。計画の初期段階から地域と対話しながら、例えば地域で出資するとか、地域に利益の一部を還元するといった形ができて、いい関係性が築けるようにしていくことが重要だと思う。
- ・すべての屋根に太陽光パネルを乗せるのではなく、赤い石州瓦の屋根が残る景観を一部でも残すようなことができないか。

(その他)

産業部門、製造業において非常に大きな温室効果ガスの排出があり、どうしていけばいいのか課題だと思う。ひとつには、計画策定を契機に産業部門でどのようなことを考えているのか、意思疎通をしながら、共生を図っていくいい機会になると思う。